



お江戸舟遊び瓦版 1115号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり

お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13・10

孫崎亨「私とスパイの物語」 新潮新書 22. 12. 20

序章 スパイについて考える

- ・ 第一次世界大戦、第二次世界大戦を経てきた世界の多くの人にとって、「戦争」は近い存在で、世界を巻き込んだ大戦争が終わっても、1989 年まで「冷戦」が続いた。戦争には「諜報」が付きまとい、「スパイ」は決して遠い存在ではなく、多くのスパイ小説や映画が作られた。
- ・ ヘップバーンは、ハリウッドで活躍した大女優で、可憐な容姿と抜群の演技力で「永遠の妖精」と呼ばれた。イギリスの高級私立学校で過ごし、戦争が勃発し、10 歳でオランダに向かった。1944 年の夏、内科医ホーフトのもとで志願活動を始め、地下レジスタンのつながりが形成された。

ホーフトは反ドイツ抵抗運動の指導者で、病院は抵抗運動のセンターであった。ヘップバーンの貢献の一つはダンスで、抵抗運動への資金集めの違法な招待制の夜のイベントで演技を始めた。ヘップバーンは「木靴の中に毛糸の靴下を詰めて、自転車に乗って配達した」と回想している。彼女の家族は、オランダ上空で撃墜されたイギリス人パイロットを家の中に秘密に匿っている。

第1章 英国陸軍学校とロンドン大学スラブ語スラブ研究学部 1965～1968 年

- ・ 外務省に入る前は、仕事の相手は各国の外交官だと思っていたが、実に多くがスパイだった。私は 1966 年、外務省に入りロシア語の研修を命じられ、陸軍学校に入った。ロシア語のクラスは 13 名。学生は軍人と、英国外務省からの 2 人と私だった。

第2章 モスクワ大学時代 1968～1969 年

- ・ 私はロンドン大学を出て、モスクワに行くことになった。1968 年 26 歳の時。モスクワの日本大使館に赴くと、1 枚の書類を出されて「これをモスクワ大学の窓口に出せば受け入れてくれる。〇〇番のバスに乗ってモスクワ大学に行けばいい、1 年間の研修中は大使館に来なくていい」と命じられた。モスクワ大学はとてつもなく大きくバス停がいくつもあった。
- ・ 1968 年の夏、ソ連は大混乱の中にあった。ソ連軍を主体とするワルシャ条約機構の 15 万の兵が国境を越えプラハを占拠し、ドブチュク第一書記ら改革派を逮捕した「チェコ事件」だ。私は、この事件こそ「ソ連崩壊の始まり」と思っている。社会主義は曲がり角に来ていた。かつては計画経済で作り出すものが決まっていた。しかし、社会は多様化し、それが不具合になってきた。大量の消費物出現に、市場経済の導入は不可欠だ。私のモスクワ大学での研究テーマを社会主義市場経済とした。これは、党中央が決定の最高権威ではなくなるのだ。
- ・ ソ連はスターリン主義の後遺症を抱えていた。スターリン時代、何百万の人が「反ソ連」で逮捕され、特に知識階級で酷かった。指導者は裏切らないか否かで周りを固める。スパイが周りにいる環境でどう生きていくかが課題でもあった。

第3章 モスクワ大使館時代 1969 年～1971 年

- ・ ソ連は 1957 年、世界初の人工衛星スプートニク 1 号を打ち上げ、1961 年ガガーリンが世界初の有人宇宙飛行に成功し、ソ連が世界をリードするのではないかとみられた時期があった。しかし、チェコ事件は、多様化する社会で共産党の中央集権体制では経済が機能しないことを示した。市場経済の導入は社会主義市場経済が進むべき道だったが、それを潰した。



- ・ ソ連水爆の父サハロフが核兵器開発に疑問の声を上げた。西側の科学者も声を上げ「ラッセル・アインシュタイン宣言」となった。日本初のノーベル賞湯川秀樹もその 11 人に連なった。

第 4 章 調査企画部分分析課 1971～1974 年

- ・ 情報分野には、人を介する諜報活動「ヒューミント」と、通信・電磁波・信号等の主として傍受を利用した諜報活動「シギント」がある。各国のシギント活動は、米国・国家安全保障局、英国・政府通信本部、仏・軍事偵察局、日本・警察庁警備局等などがある。

第 5 章 ロンドンに勤務 1976～1978 年

- ・ 在英大使館で、英国の在外政策を担当した。時々、ソ連に対する分析を聞いて東京に報告した温厚なデイリー・テレグラフのフロイド氏は共産主義の容赦ない敵という評判を確立していたが、ソ連のスパイだった。

第 6 章 再度モスクワ 1978～1980 年

- ・ モスクワにいた私は「ソ連は追い詰められている」との印象を持っていた。端的に示すのがオリンピックのボイコットであった。
- ・ 米ソ間には長距離弾道ミサイルの均衡があり、核大国の一方が、先制核攻撃をした場合、攻撃国の破壊を免れた残存核戦力によって報復できる能力を保証する体制：確証破壊戦略と言う。

第 7 章 分析課長時代 1983～1985 年

- ・ スパイを含む情報活動には、①現地での情報収集、②現地情報を基礎に情報分析、③政策決定者に情報提供するが、第一段階がスパイの活動する分野だ。
- ・ 1950 年代、一枚岩といわれた中ソ関係がぎくしゃくした。

第 8 章 在イラク大使館勤務 1986～1989 年

- ・ サダム・フセインは見張り役に過ぎなかったが、シリア・エジプトに亡命して、外国の支援を得て莫大な資金を持って帰国し、バアス党の幹部になった。米国 CIA が育てたのだ。

第 9 章 在カナダ大使館勤務時代（1989～1991 年）と 国際情報局長時代（1997～1999 年）

- ・ イラン・イラク戦争終結後の 1989 年、カナダに赴任した。カナダ外務省の局長から「今、日本はアメリカとの外交で苦勞しているが、歴史的にアメリカとの外交で最も苦勞してきたのはカナダだ。経済力で米国の 1/10 で、吸収される危険がある。日本がアメリカとの外交で苦勞している今、カナダ外交を学ばなくてどうする。」と言われた。

第 10 章 駐イラン大使時代 1999～2001 年

- ・ 1979 年 2 月、米国大使館占拠デモがあった。当初は、米国帝国主義打倒はなかったが、途中から『米国帝国主義打倒』に転じた。ソ連 KGB かイスラエルのモサドの示唆か、イスラエルは、米・イラン関係が良好になると困るからと推察される。

第 11 章 防衛大学校教授、退官 2002 年以降～現在

- ・ 安倍氏は 2022 年 7 月奈良西大寺で選挙応援中に銃撃され死亡した。日本では山上被告が殺害したということで、終止符が打たれているが、それでいいのだろうか？
- ・ ロバート・ケネディジュニアは 2024 年に大統領選に出馬したが、一貫してケネディ大統領は軍・CIA に殺害されたと主張している。
- ・ 私は東大名誉教授や自民党関係者、評論家、米国人などから直接、間接に、安倍氏の殺害事件は山上被告の銃ではない可能性がある——と聞き、彼以外の可能性の有無を考察してきた。
- ・ 奈良県立大の福島英賢教授は、頭部前の付け根付近で真ん中より少し右に 2 つの銃創があり、一つは左の肩から貫通して出たとみられると説明する。このことから銃弾は前方ないし、右から撃たれていると言わざるを得ない。不思議なことにこの福島教授の説明を新聞なり、ビデオで見た人はほとんどいない。将来も探せない可能性がある。当局は説明努力をしたのだろうか。

所感：日本で最もスパイと接触した元外交官孫崎氏ならではの「安倍氏殺害」真相考察に注目した。日本の政治はその後少し変化を見せ、NHK の朝ドラや大河ドラマまで、従来の流れが変化している。その反動として、教育勅語を是とする参政党が参院選で伸長した感がある。（文責 中瀬）